



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



患者さんの生活を支える医療

平鹿総合病院 院長 齊藤 研

多くの人是一生の間になんらかの医療を受けます。そして、殆どの方は入院を1～2回は経験するのではないのでしょうか。しかし、最近の入院期間は短縮化傾向にあり、平均すると2週間足らずです。従って、生活の中で、入院は一時的な時間にすぎません。この間、病院では多職種が連携し支えます。退院後、高齢者は有病率が高いため、慢性疾患で長期間、医療機関と関わっていきます。ただ、あくまでも本人の生活が主であり、医療はその人の人生の中でわずかな部分、時間軸で見ても、ほんの一部です。医療は生活を支えるためにあるのです。

また、地域で支える構図としては、患者さん・家族が中心にあり、医療機関を含む事業所（病院、診療所、介護・福祉施設、薬局 等）は本人を取り囲み連携します。これからの病院は、地域包括ケア病床で、院外からの直接入院を強化します（時々入院、ほぼ在宅）。

そして、介護予防、健康管理、院外連携のために情報共有ツールが必要となります。即ち、個人データであるPHR（Personal Health Record）です。これには遺伝子、健診・検診、医療、服薬、施設等の情報が入ります。

以上の事をふまえて、患者さんの生活の質を高めることを、当院は目標に掲げます。

もくじ

患者さんの生活を支える医療	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
当院の診療部門のご紹介	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介



病診連携で思うこと



高橋医院 院長
高橋 和彦

昨年1年間に平鹿総合病院に書いた情報提供書は139件でした。最も多かったのが放射線科の47件でほとんどがCTの依頼です。当院におけるCT依頼は毎年80件を超えており半数以上を平鹿総合病院にお願いしていることとなります。「下手な鉄砲も数打ちゃ当たる」的にお願している面も無きにしもあらずで、病院にとっては迷惑かもしれませんが脳血管障害、消化器がん、肺がんなどを指摘していただき私にとっては大変助かっているところです。

オープンベッドの利用は13件で、脳神経外科5件、循環器内科4件、消化器・糖尿病内科3件、整形外科1件でした。入院したものの体力や認知機能の低下などで退院後の行き先が見つからず医師、担当看護師、退院支援看護師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、家族、連携室で対応について検討した事例があり最近増えてきている印象です。

スムーズな退院に導くためには、患者の病状改善のみならず生活環境、家族関係、経済状況などを把握し、それを踏まえて退院後の対応について適切な助言、情報を患者や家族に提供し納得してもらわなければなりません。そのためには行政や開業医も巻き込んだ多業種による連携と情報共有が重要と考えます。



今、自分たちができる事 ～ともに手を取りみんながハッピー～



社会福祉法人
アヴェク・トワ
理事長
佐藤 真由香

皆様におかれましては、日頃より当法人の運営に格別のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私は以前、看護師として平鹿総合病院に勤務させて頂いておりました。現在、外部から平鹿総合病院を見ると改めて当地域での存在の大きさを感じさせられます。地域の福祉環境を見ると、ケアマネージャーを中心に、各種介護・支援サービスがあり、いざとなれば協力医療機関がバックアップという体制が確立されております。おかげさまで私もショートステイ月に咲く花では、重度対応をいち早く取り入れる事ができました。私たちの目の前にいらっしゃるの、色々な人生を歩まれてきた「一人の人間」です。そこには敬意を払い、尊厳を重視し、そこに携わるすべての事業所・職種が自分たちの役割に責任と使命をしっかりと持ち、互いを認め合いながら、その方にとって最善の人生をコーディネートすることが本当の地域包括ケアシステムへの第一歩となるのではないのでしょうか。

「住み慣れた地域や自宅に帰りたい」という思いに応えよう!どのようなライフステージの方も安心して暮らしたい場所で生活して頂こう!という気概を持ち、社会福祉法人アヴェク・トワはこれからも挑戦し続けて参ります。

当院の診療部門のご紹介



安全・丁寧・思いやり



平鹿総合病院 放射線科
技師長

嘉藤 敏幸

放射線科では、診療放射線技師 19 名、看護師 4 名、放射線助手 3 名が在籍しており「安全・丁寧・思いやり」をスローガンとして常に患者さんに接遇することを心がけるよう取り組んでおります。設備としては、CT 装置 2 台・MRI 装置 2 台・血管撮影装置 2 台・RI 装置 1 台・放射線治療装置 1 台等を設置しており、昼夜問わず 24 時間体制にて患者さんへの医療に従事しています。

そのような中、スタッフは医療の高度化や専門細分化により常に新しい技術を学び研鑽しています。第一種放射線取扱主任者・放射線治療専門技師・放射線治療品質管理士・CT 認定技師・MMG 撮影認定・放射線機器管理士・医用画像情報管理士など多岐にわたる分野の資格取得に努めチーム医療を遂行しています。また、放射線被ばく管理にも高い意識を持ち、正当化と最適化に努め不必要な被ばくをさせないよう常に注意し、撮影手順の適正化や品質管理、機器の安全管理も行っておりますので、安心してご紹介下さい。

2020 年 4 月からは放射線診断医が赴任しますので、より迅速な診断レポートを提供出来る予定です。画像診断・IVR・放射線治療分野において高度医療に貢献し、地域に根差した放射線科を目指してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



栄養指導のご案内



平鹿総合病院 栄養科
副技師長

鈴木 真澄

栄養科は令和 2 年 3 月現在、育児休暇中の職員を含め 3 名の管理栄養士と 1 名の事務員、光風舎に委託となっている 34 名の給食調理スタッフで毎日患者さんに安全で美味しい給食をお届けしております。また、管理栄養士は専門性を活かし、入院患者さんの栄養管理や栄養サポートチームなどのチーム医療、栄養指導を通して患者さんの QOL の向上などを目指してサポートができるよう努めております。

栄養指導は入院中だけでなく、退院後などに外来に通院されている患者さんにも通院の頻度に合わせて継続した栄養指導を行うことで食生活改善のモチベーションを維持できるよう取り組んでおります。

また、新しい取り組みの一つとして、地域連携室を通した栄養指導を行っておりますので紹介いたします。この取り組みは当院から地域の先生方に紹介された患者さんや、栄養士の勤務していないクリニックに通院されている患者さんで栄養指導を必要とする場合に患者さんに当院にお越しいただき、紹介元の医師の指示する栄養量で当院の管理栄養士が栄養指導を行うものです。まだ実績は数件程度ですが、継続したフォローも可能ですのでご興味ある方は当院の栄養科または地域連携室にお問い合わせください。



地域医療連携セミナー開催！

- 日時** 令和1年12月13日(金) 18:30～
- 場所** 平鹿総合病院 講堂
- 参加者** 医師・薬剤師・保健師・看護師・理学療法士・MSW
ケアマネージャー・介護ヘルパー・施設管理者 計74名
- テーマ** **ACPのすすめ方**
～人生会議で患者さんの想いを叶えるために～



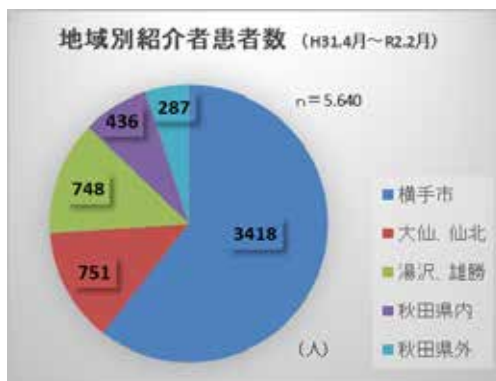
- 1. 事例検討 発表者 4階もり病棟 入退院支援 WG 看護師 小林 美子さん
- 2. 講演 講師 東北大学病院 緩和医療科 平鹿総合病院 緩和ケアチーム 武田 郁央先生

事例検討では病棟看護師より、がん終末期の90代女性の退院支援について報告がありました。自宅に帰りたい患者さんと介護不安のため施設入所を希望するご家族との関わりを通して、「もっとご本人の想いを聴きだし、介護者の長男とその想いを共有しながら支援をすすめたらよかった」と振り返りがありました。

武田先生の講演では、「人生会議」という愛称を使いながら、昨年の講義内容の振り返りを含め、疾患ごとのACPのタイミングや具体的なコミュニケーションスキルについて説明をいただきました。ACPは一人でごんばろうとせず分担して行うこと、集めた情報を全員でつなぎ合わせ、チームプレイを意識することを心がけ、まずは患者・家族、スタッフが皆でテーブルにつき、話し合うことが大切とアドバイスをいただきました。



連携実績の報告



患者さんやご家族にとって安心した医療、看護、介護が提供できるように地域の皆様のご協力、ご支援をいただきながら地域に根差した病院づくりに努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

地域医療連携室スタッフ

- 室長 榎本 好恭
- 副室長 堀川 洋平
- 看護師 大日向久美子
大沢 知佳
- 事務 橘 善幸
中嶋 秋子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL: 0182-32-5121 FAX: 0182-33-3200
URL: <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

*月曜日～金曜日(土日祝日除く) 8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL: 0182-45-6012 専用 FAX: 0182-32-0698
E-mail: tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp